研究の経過と概要

１　東山梨地区　福祉教育研究部会のとりくみ

本地区の福祉教育研究部会は，『学校教育における福祉教育のあり方を探る』を研究主題に設定し，「福祉教育」をどのように扱い，子どもたちに何を学ばせるか，理論研究，福祉施設の見学，実践授業を通して研究を進めてきた。

福祉教育というと，障害者や高齢者について福祉講話で話をうかがう，調べたり体験したりする，交流するなどの実践がおこなわれてきた。数年前より，教科や領域にとらわれず，「ともに生きる」ということを基調とし，授業実践してきた。

※ 過去の研究内容

2011年度：各校の福祉教育の実践報告
　研究授業　松里小：「お年寄りとよりよい交流をしよう」　６年【総合】
　　玉宮小：「思いやる心を伝えよう」　３年【道徳】
　施設見学　山梨市・甲州市　ハロハロ一番館・二番館

2012年度：各校の福祉教育の実践報告
　研究授業　松里小：「レッツ・トライ・ボランティア」　５年【総合】
　　後屋敷小：相手の気持ちを考えて 資料『こうえんのおにごっこ』２年【道徳】
　学習会　「福祉教育にかかわる学習会」甲州市社会福祉協議会　手塚剛史さん

2013年度：各校の福祉教育の実践報告
　研究授業　三富小：みんないっしょに生きている　４年【総合】
　　日下部小：「本当のヒーローってなあに。」　１年【道徳】
　学習会　「福祉に関わる学習会（点字）」山梨市社会福祉協議会　平山純子さん

2014年度：各校の福祉教育の実践報告
　研究授業　塩山北小：「ちょボラ」でみんなハッピーに！　５年【総合】
　　神金小：「しょうかいゲームをしよう！」　１年【学活】
　学習会　「ことばや発達に障害や特性をもつ子どもたちの豊かな人間性の育成をめざして」　講師　矢崎立美先生

2015年度：各校の福祉教育の実践報告
　研究授業　神金小：自分にできるボランティアを見つけよう　３年【総合】
　学習会　施設見学　甲州市　救護施設「鈴宮寮」

2016年度：各校の福祉教育の実践報告
　研究授業　大藤小：相手を思いやり親切に「心と心のあく手」　４年【道徳】
　学習会　施設見学　富士見支援学校

2017年度：各校の福祉教育の実践報告
　研究授業　勝沼小：友だちのことを知ろう　１年【学級活動】
　学習会　施設見学　創作工房くわの家

２　今年度の部会研究テーマ

「学校教育における福祉教育のあり方を探る」

３　今年度の部会研究の経過（予定も含めて）

５月　９日（水）	役員・研究テーマ・大まかな研究内容等の決定
５月２３日（水）	実践事例をもとにした学習会
６月１３日（水）	研究授業の授業づくり（塩山南小：中村）
８月　６日（月）	研究授業の授業案検討 施設見学　県立ろう学校
８月２９日（水）	統一授業研究会（塩山南小：中村）
９月１９日（水）	福祉教育実践報告学習会（山梨小：藤波　大藤小：堀内・川野）
１１月２８日（水）	福祉教育実践報告学習会（日下部小：早川・飯沼　後屋敷小：山宮・天野）
１月　９日（水）	福祉教育実践報告学習会（松里小：中村・高石・蘓原　祝小：三森・水上）
２月　６日（水）	福祉教育実践報告学習会（奥野田小：小河　勝沼小：金井・橋本
２月１３日（水）	成果と課題・来年度に向けて

４　研究の課題

今年度も，教科の枠や「福祉教育と言えば障害者や高齢者理解」という考え方にとらわれず，さまざまな立場の人々と「ともに生きる」思いやりあふれる子どもたちを育成することを基調として研究を進めている。これまでの研究会の中で確認されている課題は，以下の通りである。

①福祉講話や体験・交流などを単発で終わらせず，そこで学習した考え方や生き方を，日常生活でも生かしていけるような実践づくりを考えていきたい。

②「福祉」のとらえ方について，「ともに生きる」「みんなのしあわせ」のために支え合うという意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。

③立場の違いはあっても，自他の幸せを願って努力したり夢を追ったりすることは同じである，という意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。

これらの点をふまえ，研究部会に所属している部員のそれぞれの学校や個人の実践を参考に授業案づくりがおこなわれ，共通理解のもとで意見交換がなされてきている。

５　研究の仲間

◇指導助言者　　中村達也（松里小）

◇部会員　　高石圭子　中村悦子　蘓原美海（松里小）
小河真由美（奥野田小）　　堀内美紀　川野和昭（大藤小）
三森敏彦　水上由人（祝小）　　金井京子　橋本未来（勝沼小）
赤星美佐　中村　咲　樋　美枝　雨宮　正（塩山南小）
藤波　貴（山梨小）　　早川博江　飯沼順子（日下部小）
山宮由紀　天野友理（後屋敷小）

第４学年　総合的な学習の時間　指導案

日　　時　2018 年 8 月 29 日（水）14:00～14:45
場　　所　塩山南小学校　４年１組教室
対象学級　第４学年１組　33 名
指 導 者　中村　咲

１　単元名　　共に生きる

２　単元の目標
・自分の周りに暮らす人々に関心を持ち,手助けが必要な人や福祉について理解を深める。
・ユニバーサルデザインの視点から，みんなが使いやすい工夫を考える。

３　単元の評価規準
（１）　問題解決
　　〇見通しを持ち,解決や発表の計画を立てている。
（２）学び方・考え方
　　〇目的にあった情報を収集し，処理している。
　　〇解決の仕方を探したり，つまずきを解消したりする方法を見つけている。
（３）主体性・創造性
　　〇自分なりの解決方法を考え，自分の思いや願いを持ち自発的に取り組んでいる。
　　〇友だちと協力して計画を立てたり，追求活動をしたりする中で，友だちのよさを認め，自分の良さや自分の活動を見つめている。
（４）生き方
　　〇生活に結びつけて考えたり，これからの生活に生かそうとしたりしている。
　　〇学習を進める中で人との関わり合いを学び，豊かな人間関係を創り出そうとしている。

４　単元について
　本校では，学校教育目標「ふるさと甲州市の自然と文化を愛し，主体的かつ意欲的に自己を創りあげ，社会の進歩に貢献できる知・情・意・体の調和のとれた豊かな人格の育成をめざす」の具現化を図るべく，「総合的な学習の時間」においては，①地域の学習素材を起点とし，自らの課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく課題を解決する資質や能力を育てる，②探究的な見方・考え方を働かせ，課題の解決などに主体的，協働的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えたり進んで地域にかかわろうとしたりする態度を育てることを目標としている。学習を進めるにあたっては，「各教科等で習得した基礎的・基本的な知識・技能を探究的な学習に生かす」ことに留意する。
　子どもたちは，３年生の時に，地域の環境や伝統文化について調べることを通して，自分たちが住む地域のよさを見つけるとともに，地域への愛着が持てるようになっている。４年生では，地域の福祉・健康や伝統文化について調べることを通して，地域に生活する人々に目を向け人々

の思いを感じ取らせるとともに，地域への愛着をさらに深めていきたいと考える。こうしたことから，本単元では，○自分の周りに暮らす人々に関心を持ち，世に中には生活をするのに支援を必要とする人たちがいることや，全ての人たちがかけがえのない存在として尊ばれ，差別や排除されたりすることなく社会生活の中で共に支え合う，「福祉」について理解を深めること，○「ユニバーサルデザイン」の視点から，誰もが生活しやすくなる工夫などについて考えさせることを主なねらいとする。

２年生の３学期に，子どもたちは，甲州市視覚障害者福祉会会長の矢崎繁さんの福祉講話を聞いている。矢崎さんは，パートナーである盲導犬，メリッサと一緒に来校され，視覚障害者がどのように生活しているのか，盲導犬がいかに大切な役割を果たしているのか，メリッサをどれだけ大切に思っているのかなどについて話された。盲導犬を間近に見たこともあるが，お話の中で，駅のプラットホームが視覚障害者にとっていかに危険なのか，また，矢崎さん自身も何度も危険な目にあい，メリッサに助けられていることなどを聞き，子どもたちの記憶に強く残っている。本単元の学習を進めるにあたっては，まずはこれまでの経験を想起するとともに，国語で学習した『手と心で読む』を振り返る中で，世の中には生活するのに支援が必要な人がいることや，聴覚障害者にとっては「手話」がとても大切な支援であることなどに気付かせていきたい。そして，単元名「共に生きる」が本単元の学習のテーマであることを捉え，自分の課題（テーマ）を決め，調べ学習を進めていく。（調べ学習は，１学期に行っている。「盲導犬を含む介助犬」，「パラリンピック」，「義足」，「特別支援学校」，「手話」，「高齢者」など，福祉に関する様々な内容に関心を持ち，インターネットや本などを使い調べることができた。）また，自分が調べた内容をより確かなものとし課題（テーマ）の解決につなげられるように，車いす体験やアイマスク体験，パラリンピックの種目体験を設定した。さらに，調べ学習や体験したことをもとに，自分が解決した課題（テーマ）を友だちに伝えることで，「共に生きる」ことについて認識を深めさせたいと考えた。

本単元の終末においては，子どもたちに学習した内容を日常生活の中で生かせるようにしたい，「共に生きるために」，「みんなの幸せのために」支え合うという意識をもたせたいと考え，「甲州市をやさしさいっぱいのまちにするために，自分はどんなことができるのか」について考えさせることにした。「ユニバーサルデザイン」についても学習し，これからの自分や社会に対し，希望や願い，思いがもてるようなまとめにしていきたい。

《本校の福祉・環境教育について》

本校では，福祉や環境についての学習を充実させるために，教育課程の中に，福祉や環境についての学習を積極的に取り入れてきた。今年度も，教科や特別活動，「特別の教科　道徳」，外国語活動，「総合的な学習の時間」，そして教育活動全体において，福祉や環境に関わる学習や活動を推し進めていきたいと考えている。学習の目標は，次の２点である。

○ボランティアの精神とその必要性を理解し，進んでボランティア活動に取り組もうとする心情を培い，実践しようする態度を育てる。

○体験活動を通して身近な環境問題に関心を持たせ，環境を守ろうとする心情や態度を育てる。

５　児童の実態　男子 18 名　女子 15 名　計 33 名

内わかくさ学級（情緒）１名，なかよし学級（知的）１名，　あおば学級（難聴）１名

本学級の子どもたちは優しく素直な子どもが多く，当番や係活動にも積極的に取り組むことができる。自分たちで考え行動することができ，楽しさを見いだすようになってきている。特別支援学級に在籍する３名は一緒に学び，生活する時間も多い。保育園のころから知っている子どもも多く，理解ある優しい言葉がけや手助けができる学級である。

その一方で，自分の気持ちを上手に表現することが難しい子どもや，手を出すことは少ないが思いを内に秘めてしまい抱え込んでしまう子どももいる。担任は，保護者や養護教諭と連携した対応を心がけている。また，学級活動の時間を中心として，ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターを積極的に取り入れている。自己肯定感が低く，「僕には，いいところはない」「私には，できない」といった非常に消極的な子どももいる。自他を認め合う学級づくりを心がけていきたい。

６　指導計画　全２２時間

次	時	学習活動
１ つ か む	 １	**１　はじめに（１）** ・「福祉」について考える。 （国語で読んだ教材『手と心で読む』をふり返り，「手話」に興味を持ったり，福祉・手助けが必要な人に関心を持ったりする。）
	 ２ ３	**２　見通しをもとう（２）** ・これまでの生活や学習の中で，知っていることをウェブマップに書く。 ・学級全体で知っていることや興味のあることを共有する。 ・学習計画を立てる。 ・調べ学習のテーマを決める。
２ 探 求 す る	 ４ ５ ６ ７ ８ ９ 10	**３　調べよう（７）** ・テーマに沿って調べ学習を進める。 ・インターネットや本を利用して進めていく。 ↓
３ ま と め	 11 12 13	**４　体験しよう（３）** ・車いす体験をして，足の不自由な人の生活を知る。 ・アイマスク体験をして，目の不自由な人の生活を知る。 ・パラリンピックの種目を体験する。

る		
伝える	14 15 16 17 18	**5　調べたこと・体験したことを伝えよう（5）** ・体験をふり返る。 ・調べたことをふり返る。 ・調べたことをまとめる。 ・発表会を行い，共通理解を図る。
4 考える	19 20 21	**6　自分たちにできることを考えよう（3）** ・ユニバーサルデザインを知る。 「こおりやまユニバーサルデザイン」 ・ユニバーサルデザイン調査隊（時間外）※夏休みの課題 ・ユニバーサルデザイン調査隊発表会 ・「甲州市をやさしさいっぱいのまちにするために，ユニバーサルデザインでまちづくりをしよう。」（本時）
5 ふり返る	22	**7　まとめ（1）** ・学んだことを振り返り，自分たちの生活に生かせることはないか考える。

7　本時の学習

（1）　日時　平成３０年８月２９日（水）１４：００～１４：４５

（2）　場所　塩山南小学校　　４年１組教室

（3）　目標　ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりに興味を持ち，自分たちにできることを考える。

（4）　展開

	学習活動　発問　予想される子どもたちの発言	指導上の留意点（・），評価（☆）
問題提示 （5分）	1　前時の学習を想起する。 ユニバーサルデザインが「だれもが使いやすい工夫・みんなが使いやすい工夫」であることを確認する。 「このおもちゃにはどんな工夫がありますか。」 －「目の不自由な人もさわって確かめることができる凹凸がついている。」 －「ユニバーサルデザインだ。家の中にもたくさんあった。」	・点字がついているルービックキューブと市販のルービックキューブの写真を大型テレビで提示し，比べさせる。

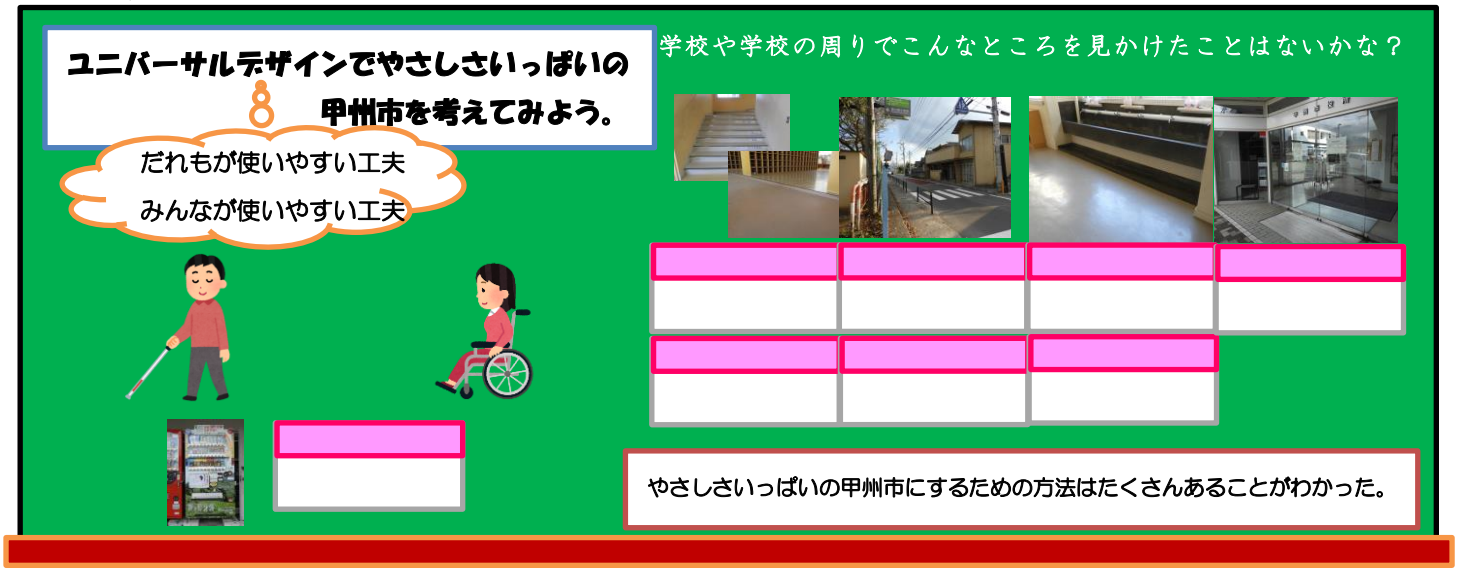
問いを知る ・ 問いの共有 （７分）	２　本時の学習課題を知る。 「今日は，甲州市にすむ『だれもが使いやすい工夫・みんなが使いやすい工夫』でいっぱいの市になるようにみんなのアイディアを出し合いましょう。」 学習のめあて ユニバーサルデザインでやさしさいっぱいの甲州市を考えてみよう。 ３　学校や学校の周りで不便な場所はないか考える。 「目の不自由な人にとって不便な場所はどこでしょう。」 －校舎の中央階段 －車通りの多いところ 「車いすの人にとって不便な場所はどこでしょう。」 －校舎の入り口の階段 －廊下の水道の蛇口 －市役所のドア	・車いす体験やアイマスク体験を想起させて，ユニバーサルデザインの観点で考えられるようにする。
自力解決 ・ 集団解決 （１５分）	４　不便な場所にどんな工夫すればよいか考える。 「目の不自由な人に不便な場所では，どんな工夫をすればよいでしょう。」 －階段には，点字をつける。 －音が出る信号機をつける。 「車いすの人に不便な場所では，どんな工夫をすればよいでしょう。」 －階段には，スロープをつける。 －水道場の高さを低くする。 －自動ドアにする。	・まずは，一人で考えさせる。なかなか工夫が思い浮かばない子どもには，体験活動の様子を思い出させ，自分がその立場になったらと考えさせる。考えがまとまったところで，班で交流する。 ☆ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりについて興味を持ち，自分たちにできることはないか考えようとしている。 （ワークシート・発言の様子）
価値の共有 （１０分）	５　不便な場所での工夫について全体で話し合う。 「目の不自由な人にとって，不便な場所ではどんな工夫がありましたか。」 －玄関から一人で教室に来られるように，点字ブロックを敷く。 －車通りの多い横断歩道で困っている人がいたら一緒に渡ってあげる。 「車いすの人には，どうでしょう。」	・各班の発表を聞いて，思ったことや考えた事を発表させる。 ☆ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりについて興味を持ち，自分たちにできることはないか考えようとしている。 （ワークシート・発言の様子）

	ー南小の水道は，段差をなくしたり低くしてもらう。 ー車いすの人が，開けやすい扉に変えてもらう。 6　出された工夫について，「自分たちにできること」と「市役所の人にお願いすること」で整理する。	・みんなができること(赤丸)，大人にたのむこと(青丸)で区別する。
ふり返り (８分)	7　板書をもとに，みんなが考えた「やさしさいっぱい甲州市」をまとめる。	・授業をふり返り，ワークシートに感想を書かせる。

８，本時の評価規準

A の姿	評価基準を達成した姿	C の児童への手立て
・ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりについて興味を持ち，自分たちにできることはないかワークシートに記入したり，班や全体での話し合いで発表したりしようとしている。	・ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりについて興味を持ち，何かできることはないかワークシートに書くことができる。	・具体的な場面を想起させ，自分ならどんなことができるか考えられるよう支援する。

９，板書計画



１０，結果

（１）　授業者の反省

・調べ学習や体験を通して，目の不自由な人や車いすに乗っている人が不便と感じることがもっと出てくる物と予想していたが，発問が悪かったせいか，挙手できない児童もいた。

・子どもの発言で，「心のユニバーサルデザイン」を出すところまで考えを持って行きたかっ

たが，発言は，「もののユニバーサルデザイン」が中心だった。今回は，「心のユニバーサルデザイン」まで求めなくてもよかったかもしれない。

・「点字ブロックをつけるのには，お金がこのくらいかかるんだよ。」と，子どもの発想に揺さぶりをかけることにより，子どもが「どうしよう･･･」と戸惑う様子を予想していたが，「ダンボールでつくればいい」というプラスの意見が出された。

（２） 研究協議より

① 導入

・手作りの教材（ルービックキューブ）を作ったことで子どもたちの興味を充分引きつけることができた。「100 均」の材料を使ったことで，誰でも取り組みやすい教材ができた。

・夏休み前から子どもたちの意識を高めることができ学習への，気持ちを持続できていた。

② 問いの共有

・自力解決に向けて，やるべきことの手順を丁寧に追うことができていた。

③ 自力解決・集団解決

・問いの共有の場面では，やるべきことの手順を追うことができていたので，全員が取り組むことができていた。

・子どもたちの生活経験や体験活動の中から，考えることができていた。

・子どもたちの発言の中で「普通の人が助けてあげる」という発言があったが，すぐに「普通の人ってどんな人？」と問い返しをしたことがよかった。子どもたちの理解を深めることができた。

・話し合い活動が円滑に行われ，班の中で全員が発言していた。自分事としてしっかり考えられていた。

・ホワイトボードに色分けをすることで，子どもたちが何をどこに書けばよいかがわかりやすく，これこそが「ユニバーサルデザイン」であった。

④ 価値の共有

・授業者は，「心のユニバーサルデザイン」まで考えを持って行きたかったようだが，「もののユニバーサルデザイン」が中心だった。4 年生の発達段階としては十分だったと考える。

・まとめの部分では，時間がぎりぎりになってしまったが，プリントの学習感想欄を上手に使い臨機応変に対応していた。

１１，本時後の活動について

本時の学習までで，ユニバーサルデザインをまちづくりに取り入れると不便な場所も暮らしやすくなることに気づくことができた。しかし，ユニバーサルデザインは長期にわたる工事が必要だったり，高額だったりして，小学生の自分たちにはすぐに取り組むことができるものではないことにも気がつくことができた。そのような中で，「今の自分たちにできることはないか」と考える時間を設定した。子どもたちの中からは，「声を掛けて，車いすを押してあげる」「ドアを押さえてあげる」「大人の人に手伝ってもらう」「市長さんに頼んであげる」などという考えや，「ダンボールなどで点字ブロックを手作りする」「声を掛けることが大切なのは分かるけど，ちょっと緊

張する」といった子どもの素直な考えや思いも出すことができた。

この学習の後に，国語の学習とも関連させて「点字」を打つ学習にも取り組んだ。とても興味を持ち，休み時間も黙々と点字を打ち込む姿が見られた。

１２，まとめ

この学習を通して，子どもたちはさらに優しさにあふれ，周囲に対して思いやりのある行動のできるようになっている。本単元の学習が長期にわたったことから，教室が隣に位置する特別支援学級に在籍する子どもたちにも自分たちから積極的に関わろうとしたり，教室内でも困っている友だちの姿を見かけるとさっと手を貸したりする姿が多く見られるようになった。「南小ノート」（自主学習）でも身の回りのユニバーサルデザインを調べたり，「愛と友情の絵はがき・愛のタオル」の募金活動への参加者が増えたりと手助けが必要な人や福祉に対しての意識が高まっている。

本学級の課題である「自分の気持ちを外に出す」ことも少しずつできるようになってきている。頑張りたいことや目指すところを言葉にすることはもちろん，学校生活を送る上での不安や悩みについても，少しずつ表現できるようになってきた。これは，本単元を通して自分の意見を発表することを多く取り入れたことが要因の一つと考える。また，困っている人のために自分ができることを考える活動も行ったことで，少しずつ自己有用感も高めることができたと感じる。運動会の練習や音楽発表会への取り組みに積極的に取り組む姿も見られている。

１３，参考文献

・みえるとかみえないとか　ヨシタケシンスケ　伊藤亜紗　著　アリス館
・郡山市公式ウェブサイト　ユニバーサルデザイン子ども向け学習教材「思いやりのとびら」
https://www.city.koriyama.fukushima.jp/150300/shisaku/gakushukyozai.html

１４，協力

甲州市役所

【資料】本時の授業の様子

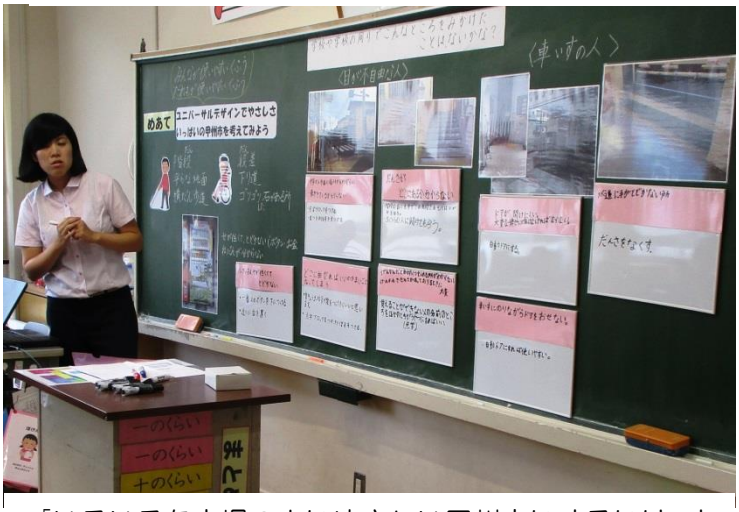
「この自動販売機は，たとえば，小さな子どもには使いやすいかな。」
「ボタンを下につければいいと思います。」

「どうすれば車いすの人にやさしいユニバーサルデザインのまちにできるのかなあ。」

「目の不自由な人にとっては車が来るかどうか分からないから，学校の前の横断歩道は危ないよ。」

「学校の前の交差点に点字ブロックをつけるには，どれぐらいお金がかかるのかなあ。」

「目の不自由な人が安全に横断歩道をわたれるように，音きょう式信号機をつけたほうがいいと思います。」



「いろいろな立場の人にやさしい甲州市にするには，大人にお願いしなきゃいけないこともたくさんあるけれど，みんなにもできることがあるね。」

【資料】体験活動の様子

そんなに大勢で囲まれると怖いな･･･
手助けの方法も学びました。

ちょっとした段差も大変。
力がいることが分かったよ。

友だちに押してもらうと楽に進めるよ。
でも，早すぎると怖かったよ。

一人で，車いすをこぐのはとても大変。
なかなか進まないよ。

真っ暗で何も見えない。怖いな･･･
私に任せて！連れて行くよ。

えっ，どこへ行くの？声をかけながら動くと少し
安心するね。